



ミュー・市場動向

大連で産業用ヒーター製造 富士電熱開発社グループ 大連宣弘電熱開発有限公司の取組み

産業用ヒーター製造の富士電熱開発社（本社・大阪市鶴見区今津北、山口宣弘社長）は2012年9月、中国大連市金州区中長街道村5・125号に現地法人「大連宣弘電熱開発有限公司」を設立した。中国産業用ヒーター市場の橋頭保としての目的である。董

事長兼總經理は山口社長が兼任している。

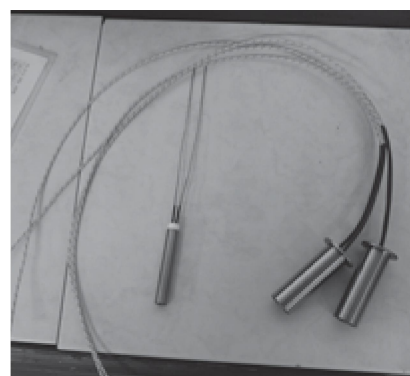
大連は、造船、鉄鋼、石油化学などいわゆる重厚長大産業から自動車、電子部品まで幅広い産業構成である。それだけに産業用ヒーターの需要は大きいものと推定される。工場内に電気炉（能力50



大型電気炉



工業用ヒーターの製作



カートリッジヒーター

0℃、50kw）も設置、カートリッジヒーター、シーズヒーターの製作を月間1千本行っている。材料の電融マグネシアは大連タテホから仕入れている。従業員は現地4名、日本人の営業1名という体制である。

「製品構成はカートリッジヒーター95%、シーズヒーター5%で、産業用分野が大半ですが、造船関係から自動車関連の金型など使われる分野の裾野が広い。大連地域に進出したのは、産業用途市場の成長が見込まれ、大連タテホさんの存在と親的な地域であることが決めた要因になっています。」
電融マグネシアについて「中国系メーカー製品は絶縁性が悪く問題が発生するケースが多いようです。その点、大連タテホ製であれば問題ありません」とする。販売

地域は、大連に限らず、トヨタ、ホンダ、日産の日系三大メーカーが終結する広州や天津、フォルクスワーゲンなどの上海など自動車産業を核に展開している。

もちろん、中国でビジネス展開するむずかしさもある。法律や商習慣、正確な情報収集が出来ないなどがある。また、人知主義と言われるように人脈が最優先されることも特色である。

その上で、「品質を最優先して中国の産業用ヒーター分野に着実な実績を着けていく」と山口社長は目標を語っている。

No.34 (2016年春号)

マグネシア・ミュー

編集・発行

タテホ化学工業株式会社

〒678-0239 兵庫県赤穂市加里屋字加藤974番地

TEL 0791-42-5041 (代表)

FAX 0791-45-2040

(本誌記事等の無断転載・複写を禁じます)